

そらぶち キッズキャンプと私。⑬



そらぶちの子どもたちから声援を受けて。

日本財託 **重吉 勉さん** Tsutomu Shigeyoshi

しげよし・つとむ●不動産管理会社、日本財託の代表取締役。
東京マラソンのチャリティランナー枠で、そらぶちのサポートを会社を挙げて行う。

投資用マンションの販売・管理を手がける日本財託は、東京マラソンの寄付金枠を使ってそらぶちを支援しています。重吉勉社長にお話をうかがいました。
text by Hideki Inoue illustration by Aiko Hama



5年ほど前から健康のために走り始め、いまではフルマラソンに挑戦しています。東京マラソンは大変な倍率で落選。この2年は寄付金枠であるチャリティランナーとして参加しています。実は私がそらぶちの存在を知ったのは、今年のエントリー後でして、これまでは別のNPOへの寄付金枠で参加しました。今年はそらぶちへの寄付金枠を使い、28名の社員がチャリティランナーとして走りました。

援してくれていましたね。へとへとでしたけれど、子どもたちの前だけはなんとか笑顔で駆け抜けようと思いました(笑)。沿道の声援がとても励みになりましたね。東京マラソンでは毎年10分ずつタイムを縮めようと考えています。去年のタイムは6時間、今年は5時間48分。毎年10分ずつ縮められたらと考えています。ずっと続けて80歳でも完走できる体力をつくりたいと思います。そもそも私たちの会社ではカンボジアに学校を建てたり、大学に奨学金制度を作ったりしてきましたが、これは企業として特別なことではないと思います。社会貢献の気持ち

重い疾患を持つ子どもたちや親御さんたちのための施設・そらぶちの存在を知り、深い感銘を受けました。恥ずかしながら、難病を抱える子どもが日本に約20万人もいることは知りませんでした。微力ですけれど、継続してそらぶちをサポートをしていきたいですね。ささやかながら日本財託が「呼び水」となり、ほかの企業にもそらぶちの存在を知ってもらえたらと思います。実際のキャンプは、まだ写真でしか拝見していないのですが、写真からでも北海道の広い場所でのびのびと子どもたちが遊んでいるのが想像できます。ぜひいつか、そらぶちキッズキャンプを訪れてみたいですね。

そらぶちの今。

東京マラソン当日、キャンプ参加者で関東在住の子どもと家族が、そらぶち応援団を結成し、ゴール近く40キロ付近の沿道で、大きな声で声援を送りました。「応援しているよ〜。負けるな〜。もう少し〜!」。多くのランナーは、笑顔で手を振りながら、「ありがとう。元気をもらった。もう少しだ〜。」と、子どもたちからエネルギーをもらっているようでした。



沿道から声援を送るそらぶち応援団。

公益財団法人そらぶちキッズキャンプ

全国に約20万人いると言われる、難病と闘う子どもたちのための医療ケアつき自然体験施設(北海道滝川市丸加高原)。ポール・ニューマンの設立した「ホール・イン・ザ・ウォール・ギャング・キャンプ」がお手本。

www.solaputi.jp

solaputi kids' camp

